



首里城火災から2年

〜これからの首里城と鎌倉芳太郎〜

市民・県民をはじめ多くの人が衝撃と悲しみに包まれた首里城火災から、10月31日で2年が経とうとしています。今月号では、現在の首里城の状況や復興計画、過去に首里城を救った男と言われる鎌倉芳太郎氏の功績を紹介いたします。

取材▼秘書広報課 ☎8622・9942

現在の首里城

火災に見舞われた首里城は、現在「見せる復興」に取り組んでいます。その一つに、世界遺産に登録され、国指定史跡でもある正殿の基壇遺構の公開があります。



正殿遺構
火災後、焼け落ちた正殿の部材や灰などを撤去し、遺構を保護する処置を講じていて、来場者が見学することができるようになっています。

また、正殿の大きな特徴の一つでもある大龍柱は、火災をくぐり抜け、奇跡的にその威容を残しています。しかし、細かい損傷が多く確認されたため、修復作業が行われました。現在は、修復後の龍柱を展示公開しています。



今後の県の復興計画

県は令和2年4月に「首里城復興基本方針」を、令和3年3月に「首里城復興基本計画」を発表しました。この基本方針と基本計画では、次の8つの基本施策とその着実な推進について示されています。

- 〈基本施策1〉正殿等の早期復元と復元過程の公開
- 〈基本施策2〉火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化

〈基本施策3〉

首里城公園のさらなる魅力の向上

〈基本施策4〉

文化財等の保全、復元、収集

〈基本施策5〉

伝統技術の活用と継承

〈基本施策6〉

「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進

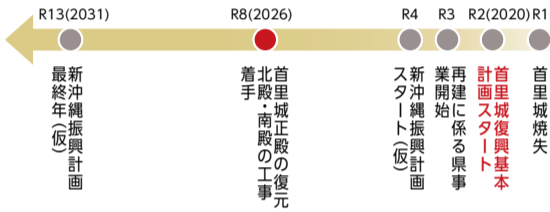
〈基本施策7〉

歴史の継承と資産としての活用

〈基本施策8〉

琉球文化のルネサンス

計画期間は、令和2(2020)年から令和13(2031)年までの12年間とされており、正殿の復元は令和8年度を目標に掲げられています。



復興に向けた那覇市の関わり

市も県や関係機関と連携し、首里城復興に取り組んでいます。主な取り組みは、次の通りです。

- ・復元・復興イベントの企画・協力観光課
- ・首里城公園における防火対策に関する管理者との連携(消防局)
- ・首里城周辺文化財の調査(文化財課)
- ・学芸員による専門的な見地からの助言・協力(文化財課)
- ・「新・首里杜構想」等の策定に関する連携(都市計画課)
- ・地域・国及び県と連携した周遊ルートの開発(観光課)
- ・子どもたちに向けた地域行事、歴史、文化の継承(生涯学習課)
- ・首里城公園(見学をむ)に関すること
- ▼首里城公園管理センター ☎8866・2020
- ▼復興計画に関すること
- ▼沖縄県知事公室特命推進課 ☎943・8199



首里城を救った男 鎌倉芳太郎



鎌倉 芳太郎 (1898-1983 沖縄) (文化研究者、染織家)

みなさんは、「鎌倉芳太郎」という名前を聞いたことがあるでしょうか。

香川県に生まれ、教師として赴任した沖縄で、琉球・沖縄の芸術・文化に魅了され、生涯を沖縄研究に捧げ、型絵染で人間国宝にも認定された人物です。

首里城にも大きな関わりがありますが、その功績を知る人はあまり多くありません。首里城復興に向けて動き出している今だからこそ、鎌倉芳太郎の功績に目を向けてみませんか。

初来沖で沖縄の魅力の虜に

鎌倉氏は、明治31年、香川県水上町(現・三木町)に生まれました。23歳の時に美術教師として沖縄勤務を命じられ来沖。沖縄県女子師範学校や沖縄県立第一高等女学校にて図画教師をしながら、沖縄美術(建築・彫刻・絵画・工芸)に魅了され研究に没頭します。

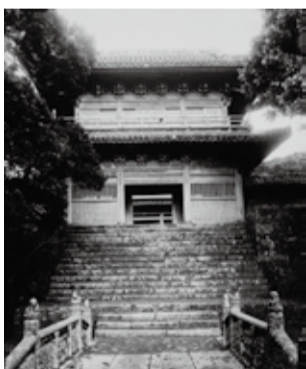
沖縄での勤務を終えた後は東京美術学校に再入学し、伊東忠大博士(建築家)の指導を受けながら沖縄研究を続けました。



首里城 正殿 正面 (大正11年、鎌倉芳太郎撮影)

首里城・沖縄への想い

大正13年3月、東京でたまたま目にした新聞で首里城正殿を取り壊し、そこに沖縄



円覚寺 三門 正面 (大正13年、鎌倉芳太郎撮影)

県社を建てるという記事を読み、大慌てで伊東忠大博士に工事を止めてほしいと訴えました。伊東博士から取り壊し中止の要請を受けた内務省は、すぐに沖縄県庁に工事を中止するよう電報で命じました。

首里に住んでいた頃、首里や沖縄・琉球の文化や人々に触れた鎌倉氏だからこそ、首里城をなくしてはならないと思ったのではないのでしょうか。

その後、琉球芸術調査のため再度沖縄に赴き、首里城のほか、尚侯爵家(中城御殿)、尚男爵家(松山御殿)などにある琉球王家ゆかりの文化財をはじめ、円覚寺、崇元寺などの寺院、その他首里、那覇の名家の所蔵品を調査、撮影します。一年間の調査で写真千五百点、実物資料三千点を収集しました。

戦争を経験し型絵染作家の道へ

昭和20年、自宅が東京大空襲に会い、蔵書三千点やその他多くの資料が焼失してしまいます。しかし、琉球芸術資料は、勤務先だった東京美術学校に保管していたため無事でした。この資料が、戦後の沖縄芸術の復興に大きく役立つこととなります。紅型の資料が多く残っていたこともあり、染織家としての活動をスタートさせます。この時、鎌倉氏は46歳になっていました。

東京にいらながらも紅型モチーフを取り入れた染織家として精力的に活動し、昭和48年、75歳で重要無形文化財「型絵染」保持者(人間国宝)に認定されました。

鎌倉氏が遺した宝たち

鎌倉氏が首里城を救ったのは正殿取り壊しの一度のみではありません。沖縄戦で破壊された後、琉球大学が設置され、首里城跡地は城不在の時期が続きました。そんな中、首里城正殿を復元しようという動きが出始め、昭和61年に国の事業として首里城跡を中心に県営公園と国営公園を整備する計画が決定しました。正殿復元に大いに役立ったのが、鎌倉氏が残した写真とノート(資料)です。また、平成19年から始まった「御後絵」復元プロジェクトにおいても、鎌倉氏が大正14年に中城御殿(沖縄戦で建物・所蔵品すべて焼失)で撮影した全11点のガラス乾板だけが復元の頼りとなりました。



初代 尚円王 御後絵 (大正14年、鎌倉芳太郎撮影)

首里・那覇だけでなく本島・宮古・八重山・奄美大島を歩いて細かく記録された取材ノート(いわゆる鎌倉ノート)81冊をはじめ、ガラス乾板、写真、紅型資料など七千点を超える資料が「鎌倉資料」としてご家族から沖縄県立芸術大学に寄贈されました。そのうちの二千点が、国の重要文化財として指定されています。

鎌倉氏の沖縄への多大なる貢献が評価され、昭和52年、石垣市名誉市民、昭和59年、三木町(出身地)名誉町民として顕彰されています。

【出典】

- 株式会社 沖縄文化の社
- 「麗しき琉球の記憶―鎌倉芳太郎が発見した美―」
- 三木町 「三木町出身の偉い人 鎌倉芳太郎」
- 与那原恵 「首里城への坂道」
- 【画像協力機関】 沖縄県立芸術大学附属図書館 芸術資料館